

令和6年度

柳川高等学校通信課程

# ガイダンス

GUIDANCE

柳川高校の生徒である私は、

## BELIEVE

自分を信じる

## CHALLENGE

挑戦する

## FRIENDLY

友を応援し、友から応援される

の3つのマインドを基本に  
積極的に学び、  
未来創造力を身につけます



学校法人 柳商学園

柳川高等学校

YANAGAWA HIGH SCHOOL

柳川市本城町125番地

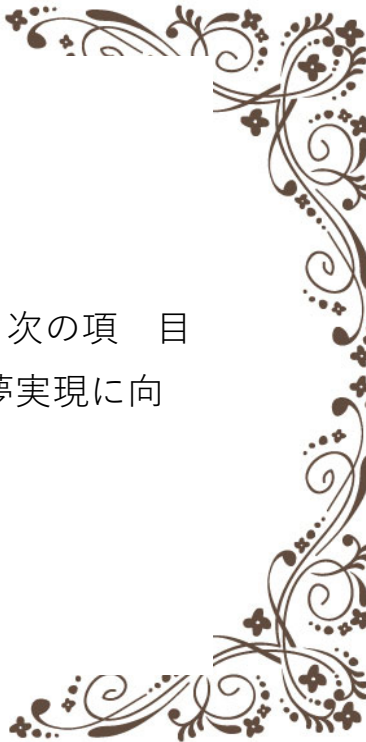
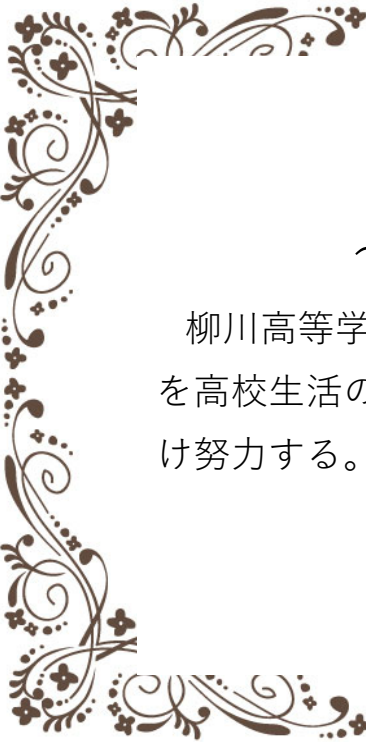
電話 0944-73-3333

FAX 0944-73-0575

# 建学の精神

「より良き日本国民の育成」を基本原理とし、特に次の二項の徹底を期する。

1. 正義と平和を愛し、自己の行動に責任を持つ誠意と道義心の高い人格の育成を期する。
2. 学業に励み、規律と礼儀を重んじ、健康で実践力に富む人格を育成する。



## 教育方針

### ～未来創造力の育成～

柳川高等学校の生徒は、建学の精神の下、次の項目を高校生活の目標として掲げ、それぞれの夢実現に向け努力する。

- ・ 自律する力
- ・ 思いやりの心を持つ

- ・教育理念

# 「啐啄同時」の教え

卵の中のひながかえろうとする時、ひなが内側からつつくのを「啐」(そつ)、親鳥が外からつつくことを「啄」(たく)といいます。この「啐」と「啄」が一致してひなが生まれるという得がたい好機を「啐啄同時」といいます。

柳川高等学校では、この「啐啄同時」の言葉を、生徒(ひな)の意欲に教師(親鳥)が耳を傾け、すばやく応じると解釈し、生徒の夢実現のために、きめ細やかな指導に取り組んでいます。

柳川高等学校の初代古賀肇理事長が本校の教育の一つとして掲げた、「啐啄同時」の言葉は、グラウンドの野球スコアボードに刻まれており、創立以来今でも脈々と受け継がれています。

## ・特別活動指導計画(年間10時間)

通信教育においては学習面で時間的な条件を中心として様々な制約がある。特に特別活動を実施していくには顕著である。しかしながら通信制の生徒だからこそ、アルバイト等による地域社会・職域社会との接点が多くなる可能性も高い。これらに基づいた特色ある特別活動を行っていくこと

このような困難性と可能性の上に立って、

1. 人格の尊重
2. 個性の伸長
3. 社会的資質と行動の向上

を目指し、具体的実際の活動を展開する。

### (ア) ホームルーム活動

スクーリングの日にホームルームの時間を設け、学習や生活上の問題点について話あったり、担当教職員のアドバイス、学校からの諸連絡等を行い、問題解決やクラス交流の場とする。

### (イ) 学校行事

通信制における学習や仲間づくりを促進し、併せて生徒の心身の健康増進を図ることによって通信教育の発展充実に寄与するために、次の行事を行う。

- ①儀式的行事・・・入学式、卒業式等
- ②学芸的行事・・・生活体験発表会、特別スクーリング等
- ③奉仕的行事・・・校外清掃活動、ボランティア活動等

## 教育課程

### ・モデルカリキュラム

教科	科目	単位数	科目配当学年		
			1年	2年	3年
国語	現代の国語	2	2		
	言語文化	2	2		
	論理国語	4		4	
	国語表現	4			4
地歴	地理総合	2		2	
	歴史総合	2	2		
公民	公共	2	2		
	政治経済	2			2
数学	数学Ⅰ	3	3		
	数学Ⅱ	4		4	
	数学Ⅲ	2			2
	数学A	2	2		
	数学B	2		2	
	数学C	2			2
理科	科学と人間生活	2	2		
	物理基礎	2		2	
	化学基礎	2			2
	生物基礎	2			2
保健体育	体育	7	2	2	3
	保健	2	1	1	
芸術	書道	2	2		
外国語	英語コミュニケーションⅠ	3	3		
	英語コミュニケーションⅡ	4		4	
	論理表現Ⅰ	2		2	
	論理表現Ⅱ	2			2
	論理表現Ⅲ	2			2
家庭	家庭基礎	2		2	
情報	情報Ⅰ	2	2		
	総合的な探求の時間	3	1	1	1
			26	26	22

※修得単位数に応じて変更の可能性があります。

## ・校時表

HR	08:50~09:00
1限	09:00~09:50
2限	10:00~10:50
3限	11:00~11:50
4限	12:00~12:50
昼休み	12:50~13:30
5限	13:30~14:20
6限	14:30~15:20
清掃・HR	15:20~15:30

## ・教科指導計画

### ①面接指導（スクーリング：毎週土曜日）

前期と後期に分け、毎週1回土曜日に学校に登校する。提出すべきレポートの枚数・期限を周知徹底させ、スクーリング最終日までに終了するよう指導に当たる。

### ②前期試験・後期試験

試験範囲・試験のポイントを連絡徹底して、それぞれ2日から3日間実施する。

### ③追試験

前期・後期試験でそれぞれ合格点（30点）に達しなかった場合に実施する。

### ④特別スクーリング

前期試験・後期試験の前に、それぞれ履修時間不足に充てる。1科目2時間まで。

## ・評価計画

### ①評価方針

生徒の実態に応じた特色ある教育となるように、単位制の特性を活かして自ら科目選択することによって、自主的かつ主体的な学習となるよう配慮する。特に、生徒個々の入学に至るまでの履修状況に応じて個別対応するように努める。

評価の重点の置き方は、それぞれの教科科目の特性を活かしたものとすがるが、あくまでもレポートの添削指導を中心に教科指導に当たる。その際、レポートのやり取りの重要性を理解させ、何回かのやり取りで自らの問題解決能力を身に着けさせるよう指導に工夫をして、基礎的・基本的な内容の確実な理解の定着を図る。

### ②評価の方法

レポートの提出枚数は教科によって異なるが、毎回の進捗を確認しながら、前期・後期それぞれの機関に終わらせるべき枚数を確実に提出できるように生徒個々に支援する。不十分な内容や解答であった場合は、要点をとらえて指導し修正をして再提出させる。再提出の回数は評価の重点とはせず、意欲・関心の度合いや理解の深度を重視する。

スクーリングにおいては、教科書をもとに、生徒自らが問題解決できるよう工夫して指導にあたり、生徒の意欲・態度を観察して評価につなげる。

テストについては、レポートや副教材の問題集の内容を十分加味し、レポート提出の成果とスクーリングの指導内容が活かされたテストになるよう工夫し、その成果を評価する。前期・後期のテストを総合的に評価し、単位の取得を道めることになる。



